

関東鉄道竜ヶ崎線の思い出

～1970 年代の竜ヶ崎線～

福田 均

最初の竜ヶ崎線訪問

昭和 46(1971)年 7 月 29 日木曜日の午前、高校 2 年生だった私は国鉄常磐線下り列車から佐貫駅に初めて降り立った。跨線橋を渡って改札口を出ると小さな駅舎があって反対側には関東鉄道竜ヶ崎線の改札口がすぐに目に入った。竜ヶ崎線のホームには列車の姿は無く、時刻表を見ると次の列車まで少し時間があるようなので駅の外に出て竜ヶ崎からの列車が到着する様子を撮影することにした。佐貫駅を出てすぐのカーブのところに腕木式の場内信号機があったので、それを入れた構図で列車を撮影することができた。

列車到着後は竜ヶ崎線ホーム脇の道路から駅に列車がいる情景を数枚撮影した。この時竜ヶ崎駅についての情報は持っていたが、佐貫駅についての情報は持っていなかったので意外と絵になる駅であることを初めて知った。

駅に戻り竜ヶ崎までの乗車券を買って（券売機は無く窓口で買ったような不確かな記憶がある）初めて見る竜ヶ崎駅に期待を膨らませながら列車に乗り込んだ。

きっかけは『季刊 蒸気機関車』

この日にこの行動を取るに至ったのには次のような経緯があった。

元々鉄道好きな子供だったが中学に入って簡単なカメラを買ってもらい鉄道の写真を撮る楽しさを知った。最初は身近にあった路線を撮影していたが、雑誌などを読むようになり色々な情報が入ってくると関心先が細分化されてきた。私の場合は当時終焉期を迎えつつあった国鉄蒸気機関車と地方の小規模な私鉄がその対象となった。そして中学卒業が近づいた頃、ある雑誌に載った蒸気機関車の運行が終わったタイミングの竜ヶ崎線の記事に強烈な影響を受け「いつかここに行ってみたい。」と強く思うようになった。だが、父が転勤族だったので当時は愛知県に住んでおり、茨城県は中学生にとって遠い土地だった。しかし、高校 1 年の終わりに千葉県へ転居、竜ヶ崎訪問が実現したのである。

昭和 46(1971)年の竜ヶ崎駅

途中駅入地を過ぎるともう終点竜ヶ崎だ。あまりに短く乗車中の印象がほとんど残っていないのが残念だ。到着した竜ヶ崎駅構内の印象が強烈だったので霞んでしまったのかも

知れない。

竜ヶ崎駅を出て隣接する車庫に向かった。ここは構内に入れてもらわずとも周囲の公道から見学できるのありがたい。前述の記事にあった見取り図の通りの風景が目前に展開しているのに興奮した覚えがある。何気なく道路を横切る土に埋れた線路や年季の入った倉庫群、まだ蒸気機関車の存在を感じさせる構内の佇まいなど今まで見たことのない鉄道情景を目の当たりにし、自身の鉄道趣味の方向性がここで確立されたように思える。

やがて先ほど乗って来た列車が佐貫に向けて走り去る様子を構内の外れの水田から撮影した。駅から市街地の方には行かなかったで周囲は見渡す限りの水田、というのがこの時の竜ヶ崎の印象だ。

続いて駅構内の様子も撮影して最初の竜ヶ崎訪問を終え、この日のもう一つの目的地である常総線水海道へ向かった。経費が限られる10代のこの頃は一度の外出に複数の目的を持たせることが普通であった。この日は梅雨明けの好天でとにかく暑い日だったのを覚えている。

竜ヶ崎線再訪

2回目の訪問となったのは翌昭和47(1972)年3月30日だった。春休みを利用して愛知在住時代の鉄道好きの友人が訪ねて来たので、竜ヶ崎に案内することになったのだ。1回目とは対照的に曇った肌寒い日だったが、古い車両が運用に入っていて撮影できたのが収穫だった。

この頃撮影した写真をのちに振り返ると、高校2年と3年の間に自分なりの進歩を感じる。駅の情景なども撮るようになった。でも、特徴のある竜ヶ崎の当時の駅舎を正面から撮影した写真が無いことが悔やまれる。現代のデジタル撮影では撮影することにコストが掛からないが、当時の銀塩写真では撮影するだけでフィルム代が掛かったから学生身分では「何でも取り敢えず撮っておく。」行動は選択できなかったのである。

来訪を重ねて感じること

翌年大学に進学して行動範囲が広がってくると、全国の私鉄巡りに忙しくなり竜ヶ崎から足が遠のいてしまった。その間に運転免許を取得したので自宅から1時間くらいで行ける竜ヶ崎への3回目の訪問は車利用だった。大学4年の昭和51(1976)年7月だったが、駅舎が建て替えられたのを知って落胆したことを覚えている。

その後も車両は変わってしまったが構内の佇まいが好きで何度となく車で訪問した。10

年くらい前には久しぶりに列車に乗車する機会があった。佐貫の駅はすっかり変わって以前の面影を偲ぶのは難しいが、竜ヶ崎は構内の線路や建物が減っても以前の面影を偲ぶことができるのが嬉しい。この時は初めて竜ヶ崎の市街地を歩いてみたりもしたが、ご多分に漏れず駅前の市街地としての役割が薄れているように感じた。車で走っているのもロードサイドが新市街として発展しているのは知っているが、やはり寂しく感じる。

むすびにかえて

今回紀行文の依頼をいただき慣れない文章を書いたが紀行文と言うよりは撮影記になってしまったことをご容赦いただきたい。

半世紀近く私の趣味活動を支え続けてくれている「竜鉄」が、いつまでも地域を支える足として走り続けることを祈念して駄文を終えたい。

写真1



佐貫駅 昭和46(1971)年7月29日撮影

国鉄ホームとの間の狭い駅前が左に写っている。興味の中心が車両だったので駅前を正面から写していないのが残念。

写真 2



竜ヶ崎駅を発車した佐貫行き列車 昭和 46(1971)年 7 月 29 日撮影
現在は商業施設の建物が建っている辺りと思われるが当時は一望の水田だった。

写真 3



竜ヶ崎駅に近づく列車 昭和 46(1971)年 7 月 29 日撮影
後部運転室に車掌の姿が見える。3 日後の 8 月 1 日からワンマン運転になったことは『「竜鉄」の歴史を探る』第 1 巻で初めて知った。期せずして過渡期の記録を残していたようだ。